

ぶつ ほんがんりき
仏の本願力を観ずるに、 遇^{もうお}うて空しく過^{むな}ぐる者なし、

よ
能く速やかに功德^{くどく}の大宝海を満足せしむ。

岐阜高山教務所主事補 高田 信

4年程前に京都の居酒屋で先輩とご飯を食べていた時のことです。隣のテーブルにスーツを着た2人組が入ってきました。50代半ばの方と20代くらいの方だと思います。私は他愛のない話を先輩としていたのですが、隣の50代くらいの方が

「これまでの人生、仕事をして、帰って、家族がいて、酒を飲みながらプロ野球を見るという事を繰り返してきた。それが正しい生き方だと思ってきた。けど何か大切なものに気づかないように、そう生きてきた気がする。」と言っていたのを今も覚えています。仕事をして、帰って、家族がいて、お酒を飲みながらプロ野球を見るということは幸福そうに聞こえますが、この方はなにか違うなと感じたのだと思います。私にも似たような経験があります。日々生活をしていて、たまに寝る前などに本当にこれでいいんだろうかと思うのです。漠然としたさみしさや不安感に苛まれるわけですが、皆さんにも似た経験があるんじゃないかと思います。

50代半ばの方は不安を口にしてから、黙っていたのですが、その後一緒にご飯を食べていた20代の方が「ちょっとよく分からないですが、とりあえず飲ん

だらいいんじゃないですかね？元気出しましょうよ」と励ましてらっしゃったんです。明るくて優しい方だなと思いました。こういうことはあると思います。さみしさや、悲しみや不安を抱えてもしょうがないので、なにか自分の身体に感じるものがあったとしても、お酒でも飲んで、まあこういう時もあるかと思って、忘れようということがあると思います。これはうまく生きていくうえで、必要なことのように感じます。

ただ、不安やさみしいという気持ちは、なにか大切なものを求めることがあるからこそ起こってくるのではないのでしょうか。大変なことですが自分の人生のむなしさや悲しみを割り切ってしまうのではなく、大切にしていけることが必要だと思います。その先がどうなっているか分かりませんが、まずしっかりと時間を取って、皆さんと一緒に何度も何度も確認しながら、自分自身と向き合っていたらと思います。